

ロス対策士や AI&DX 推進店舗ご担当者等向け

1 月 18 日（水）AI 推進店舗向け「実地棚卸なるほど Q&A」セミナー

オンラインセミナーのご案内

現在、さまざまな形で、売場での AI 実証実験が行われていますが、その成否を左右するのが、実在庫の把握です。Amazon の実験店舗においても正確な在庫カウントをするために、スタッフが手間をかけて在庫チェックしています。それは何故でしょうか？ 今回のセミナーでは近江副会長が執筆された「実地棚卸なるほど Q&A」を使いその謎を紐解きます。真の経営改革に向けて、基礎中の基礎をじっくり再確認したいと思います。

演題： AI 推進店舗向け「実地棚卸なるほど Q&A」セミナー

講師：近江 元氏 実地棚卸なるほど Q&A（中央経済社）著者

役職 工業会 日本万引防止システム協会 副会長など

日時：1 月 18 日（水）15:00～17:00

申込：Teams ウェビナー画面より

※YOTSUYA TOWER 7 階 高千穂交易(株)セミナールームでの参加を希望される皆様は事務局に別途ご連絡ください。

対象：小売業様や売場の AI 開発されているメーカー様など

内容：①実地棚卸

②チェーンストア勢力の在庫管理の実態

③DX(AI)を生かしたチェーンストア経営

③RFID 活用の目的と課題

④中小企業診断士より （一社）ロスプリベンション協会 代表理事 秋元初心氏より

⑤質疑応答（ロス対策士&万防機構の説明含む）

主催：工業会 日本万引防止システム協会（JEAS） 政策・研究委員会 DX 推進プロジェクト

書籍：事前に「実地棚卸なるほど Q&A」購入されご参加ください。

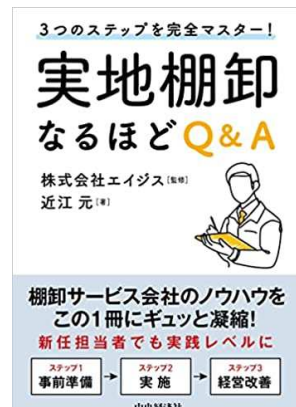
近江 元（おうみ はじめ）氏の紹介

東北大卒。20 年以上エイジスグループで棚卸を含むリテールサービスに従事。マーチャンダイジングサービス会社社長、韓国現地法人社長、エイジスリテールサポート研究所株式会社社長を経て、現在同社顧問。また、工業会日本万引防止システム協会（JEAS）副会長、特定非営利活動法人全国万引犯罪防止機構理事・LP（ロス・プリベンション）教育制度作成委員長として、小売業の万引犯罪を含むロス対策に取り組んでいる。

オンラインセミナー申込（Teams ウェビナー）

こちらの QR コードやアドレスから申込みサイトに入って必要事項を入力ください。ないしは事務局メール（infonew アットマーク jeas.gr.jp）に氏名、会社名をご連絡ください。

https://teams.microsoft.com/registration/IcUBFRFrCEyJDVvapdoeSA,3Y_Bw,NTTNPBg4qEC6IgEc1hHfVw,Oyhk82jtDEGxQaoA_3dECQ,nGWAsNOr6k6kXfNOvteVwA,5tP3vOVrtkWslZyDIwh_zw?mode=preview



『3つのステップを完全マスター！実地棚卸なる

ほどQ&A』を拝読して

株式会社エイジス（監修）、近江 元（著） 出版社：中央経済社

小売業に限らず、何らかの商品や管理すべき物品を取り扱うことを仕事の一部としていれば、誰もが定期的に在庫を調査する、いわゆる「棚卸」に携わっているはずです。しかし、あまりにも身近でありながら、その意義や目的については考えたことのある人は少ないのではないのでしょうか。

本書は棚卸をなぜやらなくてはいけないのかという素朴な疑問への答えが示されています。また、棚卸そのものについての多くの類書では財務経理的な部分に重点が置かれていますが、本書は、実地棚卸について類書にはない視点や記述が多く、より具体的にその目的や実行すべき方法、そのための手段など実務に即して詳細に書かれています。また企業経営にとっての棚卸の重要性についても述べられており、経営判断にとって欠かすことができず、在庫を悪用した粉飾についても触れられています。

多くの店舗を悩ます不明ロスについて言えば、来店者による万引、従業員などの内部不正、管理ミスが主な原因であり、損失予防に向けての総合的な方策（ロス・プリベンション）が必要となっております。しかし、その効果は実際に在庫数値を確認するという棚卸を行わないと効果はわかりません。そのためには例外なく厳しく間違いのない数値を集め、集計することが必須です。

本書ではそのことを「数値権威」と表現をしています。権威は人ではなく、正しいプロセスに基づいた数値でなくてはならない。つまり「誰が正しい」ではなく、「何が正しい」かで、判断すべきだと主張されています。

そして、その正しいプロセスを履行することにより、いままでのロスの発生原因が、例えば仕入れ伝票の処理時期から発生する、いわゆる期ズレによるものであることなどが丁寧に解説されています。また、棚卸後の原因の追究の方法の一つとして、統計的な手法である Excel による箱ひげ図を使ったロス率分布による商品管理業務レベルの可視化の紹介があり、科学的な妥当性をもって改善が進むよう説明がなされています。

実際、管理担当の方々は「ロスの原因は万引が主な原因だ。」と主張されることが多いのですが、棚卸毎にロス率が大きく変化する店舗は、伝票などの処理ミスに起因することがかなりあり、そのことをロス率のグラフ推移を使って視覚的に解説されている点も本書の秀逸なところ です。

全体が明快な Q&A 形式で書かれているので、困ったときにすぐに必要な内容について知ることができる使い勝手の良さがあります。また実地棚卸を一から学ぶための教科書ともいえるものです。さらにはデジタルサイネージやセルフレジなどの新たなチャレンジしている方々においても、効果測定の基礎資料として活用いただけるのではないかと思います。

なお、小生は著者が翻訳したリード・ヘイズ 著「ロス・プリベンションで未然に防ぐ小売業のロス対策入門（中央経済社）」もデスクに置いて、日々のロス対策の教科書とさせていただいております。

